

即時地震動予測手法の開発

地震津波火山ネットワークセンター 功刀 卓

Point

- 観測データから毎秒実況を行う強震動即時補間システムを開発
- 格子状の実況データから即時地震動予測を行う手法を開発
- 海域地震の予測迅速化のため海域データ活用手法を開発

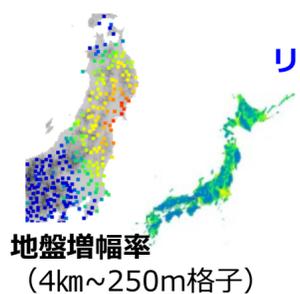
研究の領域

予防	応急対応	復旧・復興
予測・情報力		
防災基礎力		

観測から実況

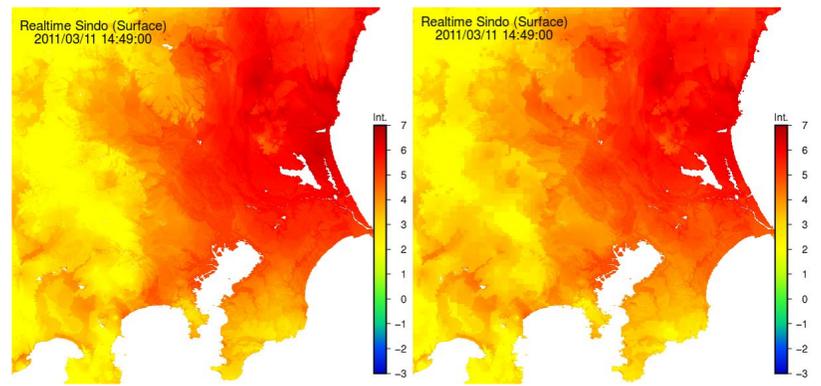
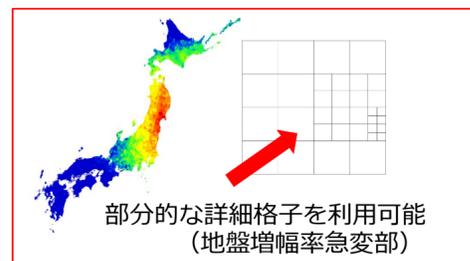
「揺れ」から「揺れ」の予測システムの実現のため、不均一な強震観測データから即時予測に必要な時空間のグリッド値をリアルタイム（1秒毎）に得るための強震動即時補間システムを開発しました。強震動の補間に際しては地盤増幅率による揺れやすさの補正が適用可能です。

強震観測データ



リアルタイム補間

時空間グリッドデータ

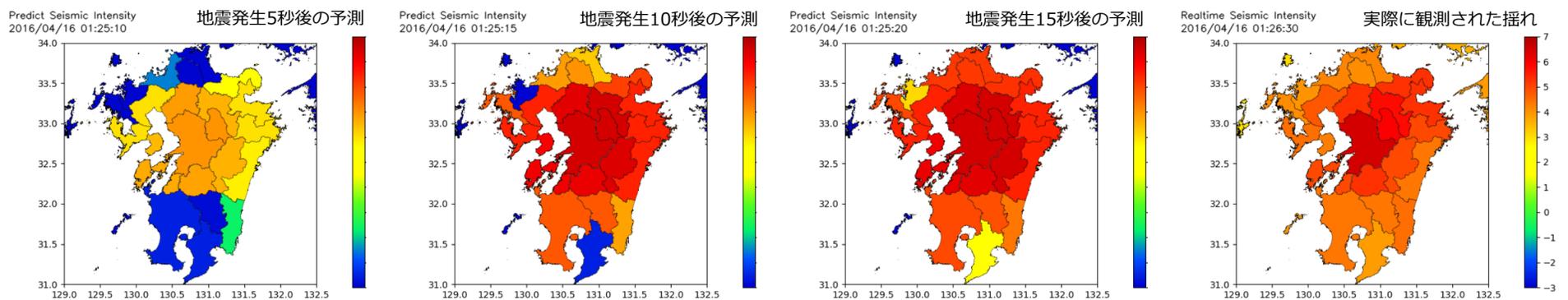


250m一律格子 (約63万格子)

4km~250m混在格子 (約27万格子)

実況から予測

強い揺れが観測された周囲の領域には、いずれは、強い揺れが到来する、という事実にもとづき、観測された強震動データのみを用いて、迅速かつ確実な地震動予測を行う手法を開発しました。



海域データの活用

海域で発生した地震に対する地震動予測を迅速化するため、海域の地震観測データ（S-net）を活用して地震動予測を行う手法を開発しました。

